

都内フードバンク団体や子ども食堂などと連携して、生活困窮者へ食の支援に取り組んでいる生協と、くらしの困りごとなどの相談会を行っている医療生協の取り組みを紹介します。



## パルシステム東京

## 産地の思いをのせて「冬のお米提供」に取り組みました



生協パルシステム東京は組合員に安全・安心な商品をお届けするとともに、フードバンクや子ども食堂等への食材提供、若者の未来を支える奨学金制度など、地域の課題解決に向けた取り組みをすすめています。その中のひとつとして、くらしに困っている方の食を支えるために、産地と連携してお米を提供する取り組みを行っています。日雇いの仕事減少や公的支援窓口の休業で、生活に困窮する人たちが増えると予想される年末年始は、主食となり長期保存が効くお米の要望が高くなることから、夏に引き続き、12月に「冬のお米提供」として実施しました。

パルシステムの産直米JAこまち「秋田あきたこまち無洗米3kg」4,080袋、12,240kgを約75団体へ提供しました。

偏りなく支援するのは難しいため、配送センターごとに以前より繋がりがあある社会福祉協議会や地域の支援団体、生活困窮者支援に取り組んでいる医療生協などに活動長から寄贈しています。

寄贈された団体からは、「継続して取り組んで頂けて嬉しい。」「前回の5kgより3kg袋は持ち帰りしやすいのでありがたい。」との声も頂いています。

生協パルシステム東京は、地域福祉政策の「ともにつこう 笑顔ひろげる身近な地域」を合言葉に、組合員の学びと参加を広げ、他団体と連携した地域活動をこれからもすすめます。



三鷹センター活動長の榎本さん(中央)と、お米提供を受けた北多摩中央医療生協の君塚理事長(右)・小田理事(左)

## 東京ほくと医療生協

## いのち・くらし・雇用「なんでも相談会」を毎月1回開催しています

全日本民医連が提起する「いのちの相談所」の大運動が全国で取り組まれる中で、東京ほくと医療生協では、北区の王子駅前三角公園で、毎月第4火曜日の午後5時から「なんでも相談会」を定例開催しています。東京ほくと医療生協の医師、看護師、ソーシャルワーカー、大学教師でもある理事の他にも地域の多様な団体が連携して相談を受けています。

12月に開催された、今年10年目を迎える「2023なんでも相談会事例検討会」では、80代の相談者が増え、家賃が払えないなど住居の問題だけでなく、孤独に悩む相談が増えていることが特徴だという報告もありました。これまで受けた822件の相談事例は全てカルテ化して統計も取り、実行委員会から北区社会保障推進協議会を通じて行政にも届けています。

また、東京ほくと医療生協では、衣食住全てが欠けている相談者が来た場合は、組織部が受け付けスポットに登録している「せかいビパーク」の制度を活用して「東京つくろいファンド」につなぐこいともあります。「せかいビパーク」は、市民の力でセーフティネットのほころびを修繕しよう！を合言葉に路上生活者や生活困窮者支援を行っている「東京つくろいファンド」のしくみのひとつで、一泊分の宿泊、一食分の食事、翌日分の移動がパッケージされた緊急おたすけパックです。パックを利用した翌日には、生活保護申請など自立支援を行うことで、路上で生活されていた何人もの方のいのちをつなぐことができました。

「なんでも相談会」開催は月一回ですが、組織部では、相談日以外のご相談を電話でも受付ています。

これからも地域のつながりをいかして、この活動を続けていきます。



ビニールカーテンに消毒も継続。感染予防対策も万全

## 【予告】まちづくり・組合員活動交流のつどい

「知り合って、つながって、安心のまちづくりをすすめよう」をテーマに  
**2024年3月11日(月)13時~16時 開催!**

学習講演&体験交流のプログラム確定! お申込みをお待ちしています

※今回は会場参加のみです

前半の『学習講演』は、「認知症未来共創ハブ」を創設され、代表もつとめる堀田聡子さんから、いつもの組合員活動やまちづくり活動から、一人ひとりのアクションを通じて、みんなが暮らしやすいまちづくりにつながるヒントとなるお話を伺います。

後半の『体験交流』は、歌あり、ゲームあり、手芸に健康チェックなど、各生協で取り組まれているいろいろなプログラムが体験できます。皆さんで楽しく学び、体験し、交流しましょう。詳しくは申し込みフォーム内のチラシをごらんください。



堀田聡子さん

申し込みフォーム

